|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項　目 | 内　容  ４：十分達成している　　３：ほぼ達成している　　２：検討を要する　　１：改善を要する  **令和５年度　こども園における自己評価** | 評　価  **どんぐりこども園** | 備考欄 |
| 理念、保育・  教育目標  について | 運営理念に沿った運営、教育・保育の実践に努めているか | 3 | ・社会のニーズが変化していく中でのこども園の役割と可能性について改めて全体で認識を新たにしていく必要がある。  ・観察と研修を基本に子ども理解を深めて子どもの人権を尊重する保育を意識して実践と振り返りに取り組んできた。 |
| 目標は、各施設や地域の特徴を生かしているか | 3 |
| 目標は、社会の陽性や保護者の願いを反映しているか | 3 |
| 目標は、前年度の反省を活かしながら全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか | 3 |
| 不適切保育を防止する子どもの人権を尊重する保育を行う | 3 |
| 教育・保育内容について | 指導計画は、教育保育計画に基づいて作成して入るか | 3 | ・実践の振り返りと評価については５領域の視点を基本に行った。  ・大人の計画主導にならないためにも子どもの観察を重要視することが大切であるという認識は共有できてきているが、そのための時間のやりくりと役割分担の進め方をさらに積極的に行うことが必要。  ・「子どもが主体であること」を大切にした保育の方法について、研修を積み重ね、方向性としては全体に定着しつつある。 |
| 毎月の指導計画は、乳幼児の実態に即して作成しているか | 3 |
| 月ごとに指導計画の評価・見直しをし、その結果を指導計画に反映させているか | 3 |
| １日の流れ（デイリープログラム等）は、前日の評価を基に日々改善に努めているか | 3 |
| 行事のねらいに添った計画を立て、適切に実施しているか | 3 |
| 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく援助・支援を適切に行っているか | 3 |
| 自主性や主体性を重んじて生活習慣が身に付くようにしているか | 3 |
| 子どもの姿を見取り、興味関心に応じた教育・保育を行っているか | 3 |
| 子どもの発達や成長につながるよう環境の構成や援助の工夫をしているか | 3 |
| 同僚性を発揮し、保育のねらいや育てたい力を話し合い実践しているか | 2 |
| 素材・用具を適切に準備し活用しているか | 3 |
| 子どもの人権に十分配慮し、互いに尊重する心を育てている | 3 |
|  |  |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項　目 | 内　容 | 評　価 | 備考欄 |
| 健康・安全について | 食育を通して、子どもたちが楽しく食べ、食べる意欲が育つように工夫しているか | 3 | ・誤飲の事故が全国的に報道されており、園内研修を元に、改めて食の安全について認識し、意識することが出来た。  ・家庭での子供の安全について保護者啓発を積極的に行う必要がある。 |
| 食物アレルギーは、個別に配慮して食事を提供しているか | 3 |
| 年齢にあった保健対策（発育・発達の把握、SIDS防止、感染症対策など）を講じているか | 3 |
| 健康・安全な生活に必要な習慣や態度が身に付くように取り組んでいるか  また家庭への啓発を行っているか | 3 |
| 避難訓練や交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか | 3 |
| 乳幼児の安全確保の為、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っているか | 3 |
| 職員の  資質向上について | 職員の研修ニーズを把握し、職員に必要な研修機会を確保しているか | 3 | ・キャリアアップ研修を全職員１科目以上受講することが出来た。  ・web配信活用して時間を有効に活用して研修に取り組んだ。職員の意欲が感じられる。 |
| 研究主題は、教育・保育目標の具現化につながるものであるか | 3 |
| 研究・研修の成果を日常の保育に生かし、乳幼児の育ちに反映させているか | 3 |
| 各種研修、講習での内容を園内に還元しているか | 3 |
| 運営管理・  職員間について | 職務内容や相互の連携に必要な情報の共有方法が明確で、共同できる体制になっているか | 3 | ・クラス担任以外の職務についての分担体制に基づいて責任を持って進められることが出来た。  ・各係は、前年度の反省点を引継ぎ把握し改善に取り組むことが出来た。 |
| 職員を適材適所に配置し、係りや仕事の分担が能率的に行える組織になっているか | 3 |
| 各種会議や打ち合わせを適切かつ効率的に進めているか | 3 |
| 運営改善の課題について把握し、計画的な取り組みを行うとともに、定期的に検証・見直しをしているか | 2 |
| 守秘義務の遵守 | 乳幼児や保護者に関する個人情報を適正に取り扱っているか | 3 | ・主幹が中心に管理し規定に基づいて行った。 |
| 公文書収受、発送、処理を適切に行っているか | 3 |
| 各表簿は、適切に作成、処理しているか | 3 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 項　目 | | 内　容 | 評　価 | 備考欄 |
| 開かれた園づくり | 地域との交流や連携 | 他施設、小学校との年間交流計画は、保育目標や課題に沿ったものになっているか | 2 | ・小学校との交流については、職員の保育参観後の意見交換、情報提供について、支援の必要な子について以外に共通のテーマを持って取り組む必要がある。 |
| 地域の様々な人と触れ合う中で、乳幼児が楽しく過ごし、充実感を味わうことが出来るような配慮や援助・支援を行っているか | 2 |
| 担当者同士が、事前打ち合わせや活動の振り返りを行い、互恵性のある交流になるように工夫しているか | 3 |
| 合同研修や見学を通して互いの教育・保育に対して理解を深めているか | 2 |
| 乳幼児の興味や関心に基づいて地域の施設等を利用し、保育に活かしているか | 3 |
| 地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れているか | 2 |
| 子育て支援機関と情報共有しながら、連携をとっているか | 3 |
| 子育て支援 | 施設を開放し、地域の親子が遊べる場や機会の提供を行っているか | 2 | ・入所希望の保護者に対し、１週間に１回の給食の希望実施を行い、喜ばれた。 |
| 職員による「育児に係る子育て相談」は実施しているか | 2 |
| 医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、必要な情報を提供しているか | 3 |
| 一時預かり保育の利用者にとって安心できる場になるよう努めているか | 3 |
| 情報  発信 | 園だよりやクラス便り、ホームページ等で教育・保育内容を発信し、理解をしてもらうよう努めているか | 3 | ・定期的に保育の写真の掲示をすることに努めた。 |
| 外部  評価 | 第三者評価を導入し、施設運営に反映しているか | 1 | ・年度末の多忙な時期を避けて取り組むことの検討を要する。 |
| 地域や保護者の意見を施設運営に反映しているか | 1 |
| 施設・設備 | | 施設内外の設備や遊具の安全点検を計画的に行っているか | 3 | ・保育室の改修、こども用ロッカーの整備を行い、環境課題の解決につながった。 |
| 遊具や用具等を、活用しやすいように整理、保管しているか | 3 |
| 災害や不審者等に対応する整備を行っているか | 2 |
| 掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか | 3 |
| 運営経理 | | 運営経理・事務を適正かつ適切に処理しているか | 3 | 監査指導に基づき実施している。 |

|  |  |
| --- | --- |
| **成　果** | ・０歳児・１歳児・２歳児の保育室の改修、子どものロッカーの買い替え、０歳児室の床暖房設置により、老朽化に伴う従来からの環境の課題が解決し、伴って保育室やテラスを広く使うことができるようになった。新しい子供用ロッカーは保護者にも好評となっている。  ・モデル園の視察報告とWEB研修を踏まえて、１・２歳児の自由な交流ができる環境へと移行する取り組みをした。試行錯誤を必要としたが、こどもの姿の観察から、子どもの連続した発達を保障することができる環境とその中での子供の成長発達を見ることができ、「子どもから学ぶ」「子どもを主体とする保育」に一歩進むことができた。  このことから、３歳以上児の異年齢交流保育とともに、園全体で「子ども主体の保育」「子どもの観察から子どもに学び環境を整える」という共通の目標に取り組むことができる体制となった。  ・職員会の時間を使って効率的にWEB研修を行った。有効に時間を使う意識と研修への意欲が高まっている。  ・会議を有効に進めるために、職員の意見について主幹、副主幹が中心となってまとめ、会議の事前準備をしていった。 |
| **課　題** | ・施設全体の老朽化に伴う各種整備は、ひとつずつ進んできているが、エレベーターの改修、園庭遊具の改修、と大きな課題が残っている。  補助事業の圧縮もあり、安全を優先して優先順位を考えて計画的に実施していくことが求められる。  ・保育者自らが主体的に課題を見つけて提案し、全員で検討していくという積極性が必要となっている。  少子化の影響で園児数が減少しているので、時間と保育者の配置体制の余裕が生まれているが、改革の意識がなければ有効に使えない。園長、主幹のリーダーシップが問われている。  ・園児の登降園の実態に沿って勤務時間の短縮及び事務仕事の負担軽減計画を作成することが求められる。  ・保護者のニーズについて考え話し合う機会を増やしたい。 |
| **改善策** | ・主幹・副主幹を中心に、園の課題、保育の課題について職員が積極的に考え提案することを意識化する。限られた職員会議の時間の中で、見直しが必要なこと、見直しが可能な方法について全体で考える機会を意識的に重ねるなかで、子どものためにどうしていくのか何を改革していくのかという考え方を根付かせていく。 |